

平成28年度第5回地方独立行政法人福岡市立病院機構評価委員会 議事録

日 時	平成29年1月31日（火）15:00～15:50	
場 所	天神チクモクビル 5F大ホール	
出席者	委員	福岡市医師会 副会長 寺坂 禮治 医療法人佐田厚生会佐田病院 佐田 正之 公認会計士 行正 晴實
	事務局	福岡市保健福祉局長，同理事，同健康医療部長，同医療事業課長
	病院機構	理事長，副理事長，運営本部長，法人運営課長， 福岡市立こども病院事務部長，同総務課長，同医事課長， 福岡市民病院事務部長，同総務課長
次 第	1 開会 2 議事 （1）地方独立行政法人福岡市立病院機構 第3期中期計画について 3 その他	
配付資料	資料1 第3期中期計画（第4回提示素案）との比較対照表 資料2 地方独立行政法人福岡市立病院機構 第3期中期計画 資料3 第3期中期計画認可にあたっての意見書（案） 参考資料1 地方独立行政法人法（抜粋） 参考資料2 第2期中期目標期間中の各年度実績値等及び第3期中期計画の目標値 参考資料3 地方独立行政法人福岡市立病院機構 第3期中期目標 参考資料4 第2期中期目標と中期計画の比較対照表 参考資料5 地方独立行政法人福岡市立病院機構 中期目標期間評価実施要領 参考資料6 第1期中期目標期間評価結果報告書（抜粋） 追加資料 事前説明でいただいたご意見等	

(1) 地方独立行政法人福岡市立病院機構 第3期中期計画について

○病院機構（運営本部）

【資料1～2について説明】

○事務局

【追加資料を配付，説明】

○委員長

それでは、まずは前半の14頁まででご意見やご質問等はいかがでしょうか。

○委員

27年度実績値と32年度目標値を比較すると、こども病院・市民病院ともに、「1人1日当たり外来単価」が下がって、「1日当たり外来患者数」が増えています。確認ですが、両病院ともそのような方向性ということでしょうか。

○病院機構（市民病院）

市民病院の「1人1日当たり外来単価」が下がっている理由としましては、C型肝炎治療薬の影響でございます。この薬は大変高価なため、27年度までは外来単価が上がっていましたが、特効性があり90%ほどの患者は治癒することから、今後、患者がほとんどいなくなってしまうことが見込まれるため、外来単価を見直しております。

外来患者の内訳としましては、再診の方が95%ほどを占めており、また、紹介率も80%です。そういった意味では、入院中心の医療提供体制とご理解いただきたいと思います。

○病院機構（こども病院）

こども病院の「1人1日当たり外来単価」が下がっている理由としましては、RSウイルスに対する抗体治療の影響でございます。年ごとにかかなり変動があるもので、平均的なところで目標値を設定しております。

外来患者につきましては、実績として徐々に増えてきておりますので、このような設定にしているところです。

○委員

「オープンカンファレンス」については、遠慮気味に目標値を設定されているということでしょうか。

○病院機構（市民病院）

実績としては、既に最大値に近いところまでできておまして、今後、右肩上がりというのは難しいのではないかと考えております。

○委員

「薬剤管理指導件数」について、こども病院が大幅に目標値を上げているのに対し、市民病院が下がっているのは何故でしょうか。

○病院機構（市民病院）

27年度の実績値は9,713件になっておりますが、これは職員が非常に頑張った結果でございます。頑張ったところから更に上乗せして目標設定するというのは、職員のモチベーションの関係もあり、難しいところがあります。28年度の目標値は9,300件に設定しておりましたので、少し上乗せして9,400件と設定したところです。

○委員長

次に、後半の15頁以降でご意見やご質問等はございませんでしょうか。

○委員

「第10 地方独立行政法人福岡市立病院機構の業務運営等に関する規則で定める業務運営に関する事項」の「1 施設及び設備に関する計画」が、45億7千3百万円となっておりますが、11月に説明に来ていただいた際は31億9千4百万円というご説明をいただきました。何故このように増えたのかを教えていただければと思います。

○病院機構（運営本部）

今回記載している金額につきましては、第3期中期目標期間の4年間で、更新が必要な医療機器や情報システム、病院の機能を維持するために必要な施設の補修・改修などを再度精査いたしまして、両病院に必要な金額を積み上げたものでございます。

但し、計画としてはこの金額で挙げておりますが、このまま予算を執行するというのではなく、まだ使用できるものについては、買い替えずに延命化を図るといったことも行ってまいります。

○委員

旧こども病院跡地の売却益は、「第5 予算、収支計画及び資金計画」「1 予算」の「その他の収入」の39億5千6百万円に入っていると思いますが、先ほどは、「2 収支計画」の「臨時利益」の7億8千2百万円が旧病院の売却益だというご説明でした。この差は何でしょうか。

○病院機構（運営本部）

「1 予算」の「その他の収入」につきましては、跡地の売却代金そのまま計上されており、一方の「2 収支計画」の「臨時利益」につきましては、鑑定評価額から解体費用を差し引いた額が帳簿価額となっており、売却代金と帳簿価額に差額が生じることとなるため、この差額を売却益として計上いたしております。

○委員

ということは、39億5千6百万円で売却したものが、7億8千2百万円しか残らないということですか。

○病院機構（運営本部）

貸借対照表上は、現在、土地として計上している跡地が、売却によって現金化されるということなので、売却益としましては7億8千2百万円になります。

○寺坂委員長

他にご意見等もございませんので、第3期中期目標としては、この内容で了解させていただきます。よろしいでしょうか。

○各委員

(異議なし)

○委員長

ありがとうございます。

○事務局

【資料3について説明】

○委員長

資料3の意見書について、ご意見やご質問はございますか。

○各委員

(意見なし)

○委員長

それでは、ご意見等もないようですので、意見書については、この文案で福岡市長に提出することといたします

その他

○事務局

【来年度の審議事項に関して、参考資料5～6を説明】

それでは、今年度の委員会は、これで終了させていただきます。